

伊能測量隊が蝦夷に向かって旅立って最初に測った星々

“寛政12年庚申年閏4月 蒙台命 蝦夷地に下向しける道中の記” と意気軒昂した面持ちで、閏4月19日朝五ツ前に江戸深川黒江町の自宅を6人体制で出発した伊能忠敬一行は、千住で別れの宴をした後、4里(15.7km)程の距離を歩測して大沢にワラジを脱いだ。翌20日は朝五ツ前に出発し9里23町(37.8km)の距離を歩測して古河城下に7ツ頃到着すると、一息入れた後、旅先での最初の天測のため象限儀や子午線儀の組み立てなどの準備を行い、手早く夕食した後に天測を開始した。時刻は21時になろうとしていた。

最初に測ることになった記念すべき星として、子午線を横切ろうとしていたのはうしかい座 γ 星(招揺)であった。時まさに寛政12年庚申年閏4月20日(西暦6月12日)午後9時02分であった。次は、10分ほどして子午線を横切ろうとしていたうしかい座 ϵ (硬河一)を測った。すると、間もなく天頂を超えた北極星の近くのこぐま座 β (大帝)が子午線を横切ろうとしていたので急ぎ象限儀の方向を北に向けてこれを測った。

以降、毎日、平均10里(40km)前後の距離を歩測しながら進んだが、天気が悪く天測はできなかった。そして、7日後の閏4月27日、仙臺国分町に八ツ半頃に着き2度目の天測を行った。また、翌日の古川でも観測が可能であったので測った。最後に測ったへびつかい座 β (宗正一)の南中は23時30分という真夜中であった。後片付けなどすると就寝は未明になっていた。にもかかわらず、翌日五ツ後(午前8時過ぎ)には出発したのであった。

天測データ

The notebook pages contain the following data:

星名	測日	測時	測度
招揺 (γ)	閏四月廿七日	午後九時二分	十度十八分
硬河一 (ϵ)	閏四月廿七日	午後九時十二分	八度七分
大帝 (β)	閏四月廿七日	午後九時十七分	八度四分
宗正一 (β)	閏四月廿七日	午後十一時三十分	十度十八分
招揺 (γ)	閏四月廿七日	午後十一時三十分	八度七分
硬河一 (ϵ)	閏四月廿七日	午後十一時三十分	八度四分
大帝 (β)	閏四月廿七日	午後十一時三十分	十度十八分
宗正一 (β)	閏四月廿七日	午後十一時三十分	十度十八分

測った星の名称 (中国名<->現在名)

4月20日 古河町		4月27日 仙臺国分町		4月28日 古川	
招搖	うしかい座 γ				
硬河一	うしかい座 ε				
太帝	こぐま座 β	太帝	こぐま座 β		
		貫索	かんむり座		
		房三	さそり座 δ	太子	こぐま座 γ
		心二	さそり座 α	心二	さそり座 α
				韓	へびつかい座 ζ
				宋	へびつかい座 η
				帝座	ヘルクレス座 α
				宗正一	へびつかい座 β

伊能忠敬の孫 伊能忠誨 が作成した星図

伊能測量隊が蝦夷に向かって旅立って、最初に測った南中する星々を確認する際にも、これと同じような星図を使ったに違いないと思われます。

恒星全図2 (伊能忠敬記念館所蔵 文書・記録類 483)

朱線は閏4月20日～閏4月28日までに測った恒星を北極点から結んだ子午線です。北極星(勾陳一; こぐま座 α)は真の北極から僅かに偏っており、この時期は既に南中の後なので、測れませんでした。

